



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

水源環境についての勉強会

県政モニターOB会 高橋 三代

年の瀬も押し迫った12月20日(土) 県政モニターOB会の8名が**水源環境**についての勉強会に参加しました。

勉強会の会場は秦野市にある**くずはの家**と傍らを流れる葛葉川です。

住宅地を通り抜けると、突然現れた大自らの空間にビックリ!

かつてこの辺りは田園風景の広がる長閑な集落だったそうで、平成10年代にナショナル・トラストの第一号に指定され、現在も自然そのままの葛葉緑地が保たれていると伺いました。

現地で金目川水系流域ネットワークの皆様と合流し、挨拶の後、小雨の中水辺へと急ぎました。



葛葉川での生物調査

長靴姿で夕毛網を持ち、流れの中で水生生物探しのスタートです。川に入っただけで作業は流れに足を取られたり、網の扱いが思う様にいかなくなったりと慣れない私達は悪戦苦闘。しかしネットワークの方々には手慣れたもので、ヨシノボリ、沢ガニ、シマドジョウ等々、次々と捕獲していきます。



くずはの家にて座学「地下水についての学び」

続いて、くずはの家に場所を移して捕獲した生き物についての講評が行われました。

水生生物についての説明と生き物の種類や水質検査の結果からも、この葛葉川が清浄な水質を保っている事が確認できました。また上流地域での下水道整備が進んでいるので、これからも良質な水質保全が期待できるそうです。

昼食をはさんで午後からは座学があり、金目川水系に生息する野鳥について、パワポイントを使っただけの説明は大変分かりやすく、美しい野鳥たちに感嘆の声しきり。

三ノ塔を源とする葛葉川と大山の香嶽を源流とする金目川は、地下水や伏流水、湧水となつて近隣住民や県民の大事な水源となっている位置づけを、高度なデータを使って説明がありました。

その後、詩の朗読や沢ガニのスケッチ体験と盛り沢山の一日でした。

県では水源環境保全・再生施策が進行中です。県民として、身近に流れる川に注目していくべきであると強く思った勉強会でした。



サワガニを必至で描きました

金目川の冬鳥

佐藤 道夫

冬鳥というと、冬期に海外からやってくる渡り鳥のことだが、ここでは金目川（花水川）で冬に出会える野鳥について書いてみたい。冬は、木々の葉が少ないため、双眼鏡で野鳥を容易に見ることができ、鳥好きには楽しい季節である。

いわゆる冬鳥では、コガモなどのカモ類、ジョウビタキ、ツグミなどに会うことができる。漂鳥では、モズ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、アカハラなどに会い、留鳥の中では、カワセミ、イソシギ、メジロ、シジュウカラ、セキレイ類、カワラヒワなどが常連である。写真の中のクイナ、イソヒヨドリには運が良いと会えるが、マヒワ、オシドリには、ここでは滅多に会えないのが残念である。

カワセミは、一年中、魚捕りに余念がない。青い姿を見ると、誰でも幸せにしてくれそうだ。ジョウビタキやツグミを初めて見かけると、今年も来てくれたかと嬉しくなる一方で、秋も深まったのだと、寂しくもなる。

掲載したものは、筆者が散歩中に撮影したもので、単なる羅列になって恐縮だが、少しでも楽しんでもらえれば幸いである。



ジョウビタキ (オス)



アカハラ



ツグミ



カワセミ (オス)



モズ



クイナ



ウグイス



イソヒヨドリ (オス)



ホオジロ



マヒワ (オス)



コガモ (メスとオス)



アオジ



オシドリ (オス)

豊かな森づくりを目指す 植樹体験

秦野市菖蒲小原

平成26年11月22日(土)

秋 紅葉の中植樹に励む



NPO法人四十八瀬川自然村から金目川中流地区の金目川水系流域ネットワークとエコミュージアム金目まると博物館および東海大学藤吉研究室の大学生へ誘いがあり、合計20名が参加しました。

快晴で紅葉の盛りのなか、自然村会員の指導のもと、植樹を行いました。

自然村スタッフから現状の活動内容や苦労話の説明を受けて、森を守ることの大切さを痛感しました。山林を形成する広葉樹の寿命が約50年であり、放置された山林は下草が鬱蒼となり、治水の役目が大きく退化してしまつて

今日まででは何とか所有者の努力で維持されてきたが、高齢化や山林から収入がなくなり放置されています。

NPO法人四十八瀬川自然村では、そのような四十八瀬川流域の未整備な山林等の整備活動を行っているとのことでした。

植樹はコナラ・モミジ・コブシ・ヤマボウシを南斜面に150本を行いました。昼食には自然村会員がトン汁とアイガモ鍋の暖かい御馳走を頂きました。



丹精込めての植樹でちょっと休憩

自然村の活動の中で収入源としては、シイタケ栽培、体験栽培教室、野菜の販売、薪の販売等があり、資材購入の資金にしているようです。

近年、ボランティア活動が浸透しており、活発に行われているが、今後さらに発展・継続のために、新規会員の募集確保と活動費の自前で調達する手段を構築していく必要性を感じました。

大切な水の循環をよくするために植樹をして水の涵養を向上させる活動の一助ができました。

エコミュージアム金目まると博物館
橋本 進



秋 色づくカラスウリ

金目川下流（花水橋周辺）の 土手と河原の清掃 募集！

今年もサクラの開花が近づいています。
花見の前に、花水橋周辺のゴミ掃除をします。
お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。



ひたむきに河原の清掃に励んでいます



河原は汚れています、集めたゴミの山

- 日 時 **3月8日（日）朝9時～11時まで** 多少の雨天決行
- 集 合 8時45分ころに、「花水橋」大磯側上流（右岸）空き地
車は**10数台、駐車可能**
- 作 業 場 所 JR 鉄橋～高麗大橋の間の兩岸、土手周辺、河原の各種ゴミ
- ゴミ集積場 高麗大橋左岸の下流より（平塚側）の土手
- 持物・服装 長靴、手袋、ごみハサミ（トンクス）、
ゴミ袋 など、作業し易い服装
- 参加団体 金目川水系流域ネットワーク、丹沢山塊の自然を考える会
（有志・個人） 横浜ゴム（株）平塚製造所
各種ボランティア団体、桜ヶ丘町内有志、個人ほか
- 申込先・担当 府川清 TEL 0463-34-7475（平塚市桜ヶ丘8-11）
FAX 0463-34-7465（金目川水系流域ネットワーク会員）
Eメール hukawa.kiyosi@purple.plala.or.jp



去る一月二十五日（日）、東海大学湘南キャンパス十三号館において「湘南里川づくりフォーラム2015」を開催しました。

今回のフォーラムでは、芝浦工業大学 菅 和利名誉教授による基調講演魚の住める川から魚の棲む里川づくりへを実施後、金目川水系らしさの象徴とは、世代間共生に向けた活動とは、会員活動報告の各テーマに分かれてプレゼンテーションや意見交換を行う分科会を行いました。

湘南里川見守り隊のみなさんをはじめ、県内各地域からお集まりいただいた参加者によって貴重な意見が交わされ、一人ひとりが課題を実感し自らの問題として捉え、環境に配慮した生活や責任ある行動をとること、そして、流域の環境保全活動を支えるネットワークの必要性を改めて再認識させられた一日となりました。

【湘南里川づくりみんなの会事務局】



「湘南里川づくりフォーラム2015」を開催しました！